

No. 1504

森林を大切に

— 国際森林年 —

国際森林年を記念して「森林の市」が5月18日から東京代々木公園で開られました。会場には全国から集められた木工製品などが並べられ素朴な木の感触が人気を呼んでいました。丸太を切って汗をかこうと「体験コーナー」もお年寄りから若い人にも好評の様子でした。

東京近郊の高尾山にある高尾山国有林は今迄も自然休養林、レクリエーションの場として都会の人に利用されてきました。林野庁ではより都会の人に森林の大切さを理解、協力してもらうために国有林の分収育林（緑のオーナー制度）を昨年からはじめました。

これは一口50万円を出資すれば立木の共有者となり、立木を販売した際にその収益の分配を受けとるという制度です。緑化運動に協力しながら2,30年後には収益が入るので一般の人の関心も高いようです。緑あふれる森林づくり、国土の緑化に協力の輪をひろげたいものです。

子供に夢を

— 愛知・岡崎 —

愛知県岡崎市では「子供に夢を」と、日本では初めての「おかざき世界子ども美術博物館」をオープンさせました。ここにはピカソを始め岡本太郎、福田繁雄らの少年時代の作品が常設されているほか、96ヶ国から集められた世界各国の子供たちの画が展示され、各方面から注目を集めています。

市内の小学校ではさっそく野外教育の一環として、子供たちが利用しています。それは明日を担う子供たちに、美を通して国際的な広い視野を養うと共に創造力や才能を育てるものです。子供たちは、ピカソの画などを見たあと館内の教室で第二、第三のピカソを目ざして筆を運んでいました。